

※障がいのある児童生徒等の「分かる」「できる」を支える、基本の13のポイントをチェックしましょう。  
 (児童生徒等の実態に応じて配慮の有無や程度は変わります。)

「分かる」「できる」を支える13のポイント チェック表		いつも できている	ときどき できている	できて いない
接 し 方	①児童生徒等のよいところや強みをたくさん見つけている。 児童生徒等のやる気、指導・支援のヒントにつながります。			
	②担任が、一番身近なモデルとなるようにふるまっている。 児童生徒等は担任の話す言葉やふるまいを真似ることが大好きです。			
	③「なぜ」の視点で、児童生徒等の言動の背景を探っている。 言動のみを評価せず、その背景(障がいの状態や発達段階、前後の事象等)に目を向けます。			
指 導 支 援	④具体的な言葉で、一つずつ指示を伝えている。 「筆箱をもって、並んで図書室に行きましょう」 →「今から図書室に行きます」「筆箱を持ちましょう」「廊下に出席順に並びましょう」等。			
	⑤具体物、写真、文字等で補い、分かりやすく情報を伝えている。 例) 校外学習の行先の写真を提示する。口頭指示を板書する。			
	⑥1時間の授業のめあてと流れを明示している。 児童生徒等に分かる言葉で、簡潔に示す配慮が必要です。			
	⑦活動の終わりはどこかを具体的に伝え、見通しをもたせている。 例) 「〇時〇分にはこの作業を終わります」「5枚封筒を作ったら終わりです」等。			
	⑧予定を提示するなど見通しをもたせ、自主性を高めている。 例) 月・週・1日の予定を示す。変更は口頭ではなく、板書して伝える。			
	⑨スモールステップの課題を準備している。 「分かった」「できた」を実感させ、学びの確実な定着と意欲の向上を図ります。			
教 室 環 境	⑩片付けの場所や道具の置き場所を分かりやすく示している。 例) ロッカーに道具の名前やイラストを貼る。			
	⑪場の構造化を図り、活動を分かりやすくする工夫をしている。 例) 教室をいくつかのエリアに分け、学習スペース、作業スペース、休憩スペース等を設ける。			
	⑫視覚的な刺激を整理し、集中しやすい環境を整えている。 例) 教室前面の掲示物を整理する。不要なものをカーテンで覆う。			
	⑬教室内外の音が集中の妨げとならないよう配慮しましょう。 例) 複数年齢で同時に学習する際の際の他学年への指導の声、隣の教室の音等に配慮する。			

「特別支援教育の手引」(令和4年3月改訂 鳥取県教育委員会)P92 を参考に作成

※障がいのある児童生徒等の指導に当たっては、障がい特性に応じてそれぞれ配慮が必要です。13のポイントを意識しながら、各教科等の指導や日頃の関わりに留意しましょう。児童生徒等によっては複数の障がいを併せ有している場合もあるため、主たる障がいだけでなく、併せ有する障がいへの配慮にも心がけましょう。